七滝沢

２００８／１０／１２～１３
Ｌ　山本実　　釣秀平（記録）

沢にも流行があるのかもしれない。さしずめ，七滝沢はここ数年人気が出て，不動の地位を勝ち得たような沢に思える。

僕が沢を始めた頃，沢のルート図として購入した本，例えば関東周辺の沢，日本登山体系などの本に七滝沢は出ていなかった。

七滝沢の名前をはじめて知ったのは，２００２年に，会の秋の沢集中で二王子岳を選定し，七滝沢パーティが編成された時だった。三井さんがスズメバチに刺されたという衝撃的なニュースとともに，一種鬼門の沢というイメージが僕の中で形作られた。

その後三井さんが２００５年七滝沢を遡行し，詳細な遡行図を残してくれた。そして今年，NHKが沢登の特集をしたとき，七滝沢が湯檜曽川本谷などと同格に扱われていた。ずいぶんとメジャーになったなと思っていたところ，今年九月末には菊地さんパーティが七滝沢を遡行し，斉藤さんがいい沢だったとの報告を例会でしていた。

山本さんが何時ごろから七滝沢の計画を暖めていたのかよく分からないが，僕は誘われるままに，その計画に乗ることにした。とにかく，近年こんなにメジャーになった沢は七滝沢か兵衛谷くらいじゃないかという気がする。メジャーになるための条件とはなんなのかが七滝沢に行くと分かるかもしれないという気がした。

【１０月１２日】

新潟まわりで内の倉ダム手前まで…遠い。山本さんが一人で運転をしてくれた。あずま屋にテントを張り，早々に就寝。

翌１２日は，まずまずの天気。しかし，放射冷却のせいだろうか寒い。車で内の倉ダムを超えて，内の倉川がダムに注ぐ所まで行く。右岸に岩場があり，ルートが開かれていた。そばに行ってみると，クライミングギアを収納するためのトタン小屋も整備されていた。地元山岳会の岩トレ基地になっているようだ。

七滝沢へは，内の倉川左岸の登山道を行く。約一時間で出合いに着く。沢装備に着替えて内の倉川を徒渉して遡行を開始する。沢は中規模，湯檜曽川本谷に近い規模だった。

沢に入ると右岸から大きな支沢が出合う，これを過ぎると少しゴルジュっぽくなり釜をヘツル。三個目ぐらいにヘツレない釜が出てきて左岸から捲く。右岸からさらに二つの支沢が合わさる。その先に瀞が出てきて左岸を捲く。巨岩と小滝を越えてゆくと８メートルの登れない滝が出てくるので左岸を大きく高捲く。高捲中沢をみると何段にも滝が重なっており，どうやら多段１００メートルといわれる大滝を一緒に捲いていることが分かる。

高捲きは，枝沢を二本超えてゆくことになるが，迷いやすい。二本目の枝沢を渡るきっかけがつかめずに，やらなくてもいい藪こぎをしてしまった。できるだけ下流で枝沢を渡るほうがいいようだ。

最初の大滝を過ぎると沢は西に向きを変える。程なく滝が出てきて，右岸から枝

沢を合わせると，多段１３０メートルの第二の大滝が始まる。右岸を捲いて，途中から左岸に渡り捲きを続ける。高捲きで，藪をこいでいると，僕の悪い癖で，後ろから来る山本さんを待たずに沢まで降りてタバコを吸おうと先急ぎをしてしまう。結局パーティは離れてしまい，山本さんに怒られてしまった。

二つ大滝を捲くと，その先に１５メートルくらいの滝が出てきた。右岸を捲くが，途中木がなくなり土壁となってしまう。強引にそこを登るのかなと思いながら，下を見ると滝の落ち口に続くバンドが見えたので，山本さんにザイルを出してもらって懸垂で，バンドに降りる。慎重にバンドをヘツって，落ち口にたどり着く。その先はゴルジュ状になり釜が続く，ヘツリながら進むと，沢は平坦なゴーロに変わる。陽も大分傾いたので，テン場を探しながら進むと，左岸に芝のような下草が生えた広い台地があった。焚き木を集め，ツェルトを張って，今日の宿とした。

【１０月１３日】

山本さんが朝早く起きて，焚き火を起こしてくれたおかげで，6時４０分という優秀な出発ができた。

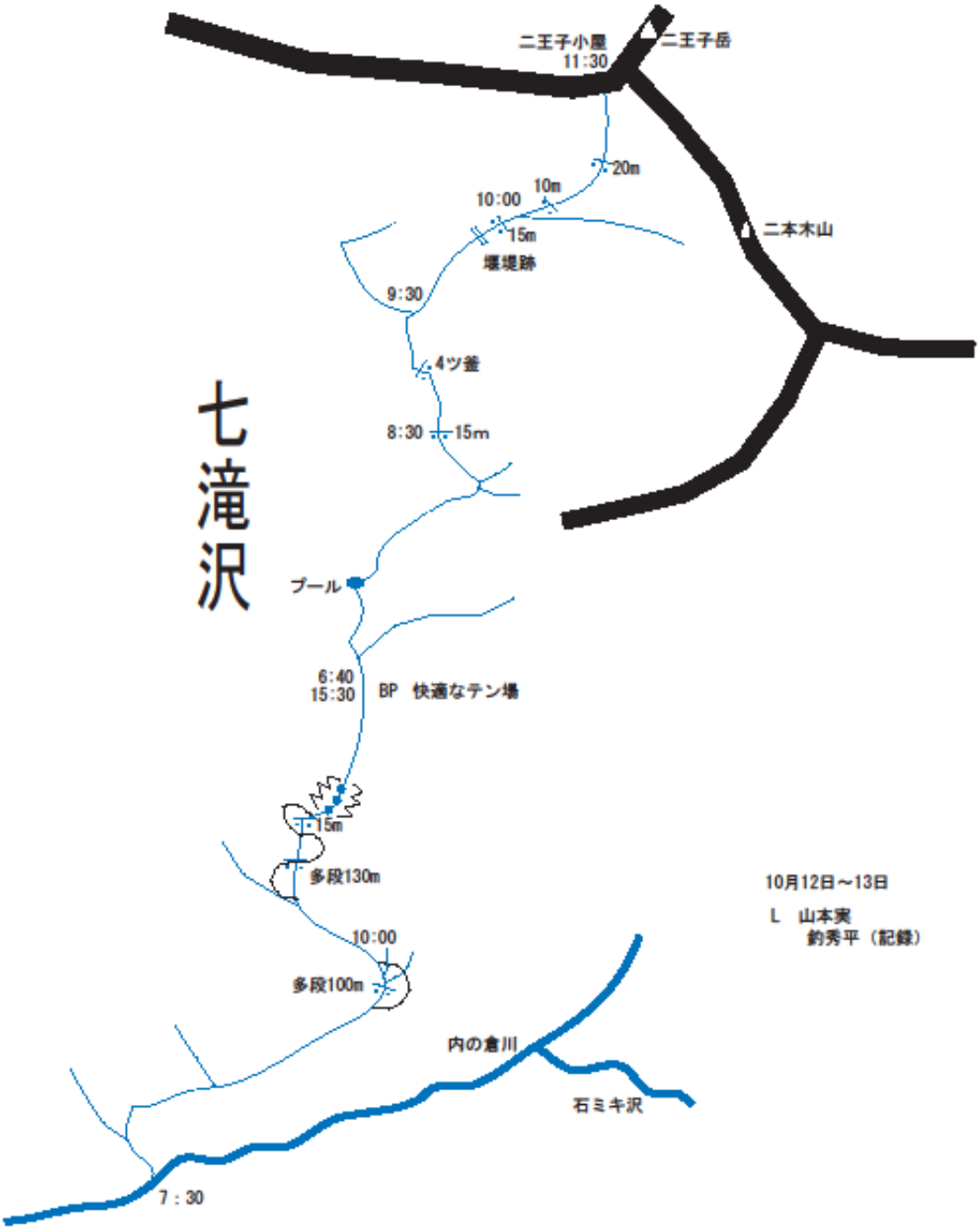
テン場を出るとすぐ，左岸から大きな支沢が出合う。その先ゴーロのような沢を歩くと，プールが出てくる。ここからしばらく釜と小滝が続く。１５メートルの顕著な滝が出て来る。ザイルをつけて越える。程なく四つ釜が現れる。きれいなところだ。その先にシュリンゲが下がった，釜があり，これを越えて小滝群を越えると，二俣に着く。

二俣を右に入り，小滝を越えてゆくと，堰堤跡に出る。堰堤の先に１５メートルの滝，５メートルのトイ状の滝があり，また二俣になる。右は二本木山に突き上げるらしい。左にルートを取ると，小滝の中に１０メートル，２０メートルの滝が現れるが，水量もないため威圧感はない。窪状になった沢を忠実に詰めると藪こぎもほとんどなく，二王子小屋に出る。

ここで山本さんと握手をして，二王子岳に向かう。二王子の裾野が新潟平野に緩やかに溶け込み，新潟平野は海に連なる。なんだか幸せな気分になる。

二王子岳から，タクシーを呼び，下山した神社で呼んでおいたタクシーに乗った。

七滝沢は，標高差一１５０メートル，遡行距離６・９キロ。万太郎，湯檜曽川本谷とほぼ近い数値である。困難度も近いような気がする。大きな違いは下流部に大滝二つを擁していることだろう。いきなりアドレナリンを出させる沢，それが魅力なのかも知れない。



10月12日～13日

L 山本実
釣秀平（記録）